

～基山モール商店街賑わい事業～

集客力の向上を目指し、空き店舗を活用した「まちなか公民館」を開催。写真サークルや絵画サークルをはじめとした展示会や、シニアを対象としたパソコン教室の開催等幅広い年齢層に楽しんでもらえる活動を実施した。延べ4,000名を超える利用があり、集客力の向上に大きな効果があった。

所在地：佐賀県三養基郡基山町大字宮浦186-1
TEL・FAX：0942-92-0025
URL：<http://kiyamamallgai.main.jp/>
組合員数：28名
商店街の類型：近隣型商店街

商店街の概要と事業を実施した背景



J R 基山駅前に位置する創業33年の老舗商店街。衣料品等の小売店・飲食店・理美容店などのサービス業を中心とした業種で構成されている。主な顧客は近隣住民の方々と、朝晩は通勤・通学者、午後から夕方にかけては主婦や学生、昼と夜の時間帯は飲食を目的とした幅広い年齢層の方々と多くの来街者で賑わいを見せている。一方で、近年は大型ショッピングセンターやアウトレット店等に消費者の注目が集まり、買い物客の町外への流出が多く見受けられる。また、当商店街の核店舗であったディスカウントスーパーの撤退や顧客の高齢化により、来街者及び売上の減少が課題となっていた。

実施した事業の概要

①毎月セール・抽選会の開催

周辺地域の住民に広く告知するために毎月5,000部の折込チラシを配布し、空き店舗を利用した賑わい拠点「まちなか公民館」にて基山町及び佐賀県の特産品が当たる抽選会を実施した。抽選会は、基山モール商店街で買い物をした方が対象となるため、このイベントにより商店街の賑わいの創出及び各店舗の売上アップにつながった。

②賑わい拠点設置・利活用調査（平成26年7月19日～平成27年2月28日）

商店街内の空き店舗を8ヶ月間借り入れ、町民の方々が自由に利用し、情報発信ができる場、通称「まちなか公民館」を開設。公民館を利用し、写真サークルや絵画サークルをはじめとした展示会や、シニアを対象としたパソコン教室、さらには町内の子育て支援ボランティアサークルによるバザーの開催等、幅広い年齢層の方に楽しんでいただける活動を実施した。延べ4,000名を超える利用があり、商店街の認知度向上につながることができた。また、J R九州主催のウォーキングイベントでは当商店街を通るコース設定にいただいたことにより、約1,300名の参加者のうち500名を超える方々にご来館いただき、ここでも商店街の認知度向上に大きくつながるものとなった。

③商店街イルミネーション事業の実施（平成26年11月24日～平成27年2月15日）

約3ヶ月間、商店街のイメージを向上させるため、各店舗及び街路樹にLEDイルミネーションを装飾し、明るい街並みを演出した。点灯に際しては本補助金をいただいた基山町3商店会が合同で点灯式を実施し、町長、商工会長をはじめ町の関係者等を招き賑やかなイベントを行った。また、点灯式に続き、近隣商店会主催（本補助金対象事業）の飲み歩きイベント「きやまKappo」を実施し、1,000名を超える参加者で街はさらに賑わいを見せた。



成果と成功の要因

「まちなか公民館」により来街者が増加し、空き店舗の解消にも効果があった。本事業では、若手メンバーを起用した事業企画運営委員会を新たに発足させ、各事業ごとに40代、50代の若手の理事を責任者とする体制を整え、若手の意見を反映した事業運営が成功につながった。また事業実施に当たり、商工会及び町役場と密接に連携し、広報活動や人的支援など多くの協力を得られたことも大きかった。さらに他団体（他の商店街やJ R九州）のイベントと連携し、事業を実施できたことも成功の要因のひとつと考えている。

今後の取り組み

利用者から「まちなか公民館」の閉鎖を惜しむ声や継続を望む声が多く聞かれたため、基山町役場や家主と協議し、基山町施設として「地域おこし協力隊の活動拠点」や「ふるさと納税の情報拠点」などに継続的に活用することを決定した。また、抽選会においては、各組合員がその効果を実感したため、次年度以降も継続的に実施していくこととした。空き店舗活用のための資金は、基山町が負担をしてくれることとなり、抽選会については参加商店の負担とするとともに、事業に係る経費は商店街の積立金などで拠出していく予定である。